

< 介護・医療連携推進会議における評価 > ※公表用

【事業所概要】

法人名	社会福祉法人 長岡福祉協会	事業所名	こぶし 24 時間ケアサービスステーション永田
所在地	(〒 940 - 0874) 新潟県長岡市永田 2 丁目 9 番 25 号		

【事業所の特徴、特に力を入れている点】

24 時間 365 日営業。必要な人に必要なサービスを提供し、その人の築き上げた暮らしを支えていく。
情報共有にはタブレットを使用し、多職種連携にも活用している。

【自己評価の実施概要】

事業所自己評価 実施日	西暦 2022 年 11 月 20 日	従業者等自己評価 実施人数	(7) 人	※管理者を含む
----------------	---------------------	------------------	---------	---------

【運営推進会議における評価の実施概要】

実施日	西暦 2023 年 2 月 20 日	出席人数 (合計)	(21) 人	※自事業所職員を含む
出席者 (内訳)	■自事業所職員 (2 人) ■市町村職員 (1 人) ■地域包括支援センター職員 (1 人) ■地域住民の代表者 (2 人) ■利用者 (1 人) ■利用者の家族 (1 人) ■知見を有する者 (1 人) ■医療従事者 (7 人) ■その他 (5 人)			

■ 前回の改善計画の進捗評価

項目	前回の改善計画	実施した具体的な取組	進捗評価	
<p>I. 事業運営の評価 (評価項目 1～10)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・介護医療連携推進会議の適切な開催を行う。会議の場へ多くの職員に参加してもらい学びの場にする。 ・より良いケアの提供のために理念や業務目標を共有して取り組み職員の知識向上に努めていく。 ・感染症や災害時におけるサービス提供が継続出来るように計画作成しシミュレーション実施する。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. コロナ禍の情勢を鑑み、第1回の会議は書面にて報告。 2. 第2回会議は対面で開催 3. 会議資料作成に当たっては、管理者、計画作成以外の職員にも関わってもらい意見を取り入れた。 <ul style="list-style-type: none"> ・理念、業務目標は常に事業所に掲げ、ミーティング時に達成度を確認した。 ・事業所内の防災訓練に参加した。 ・ヘルパー研修において、BCP研修を行いマニュアルの確認と災害時を想定した訓練を行った。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 書面での資料にも質問やご意見をいただき、事業所の課題を洗い出すことができた。 2. 対面開催においては貴重なご意見を直接お聞きすることができ、連携に欠かせない関係性も築くことができた。 3. 職員参加については限られた職員のみとなってしまった。 <ul style="list-style-type: none"> ・理念についての理解は深まったが、実現するための職員の知識向上についての取り組みの実施については未達成である。 ・訓練や研修に参加する職員が一部職員に限られるため、その後の周知に力を入れていく必要がある。 	
<p>II. サービス提供等の評価</p>	<p>1. 利用者等の特性・変化に応じた専門的なサービス提供 (評価項目 11～21)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者の心身機能の維持回復に向けて、アセスメントを行い援助に結びつける。寝たきりの方へのアプローチについても検討していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日々の援助時もアセスメントを行い状態変化にはすぐ対応するよう努めた。 寝たきりの方のアプローチについては、デイサービス職員とも連携し離床機会を増やしたり、生活歴に応じた援助の実施を試みた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・突発的な状態変化に対応する力についてはついてきている。今後はその後の経過も見極め、心身機能の維持回復を見据えた介護計画を実施することを目指す。 ・寝たきりの方についてのアプローチは一定の成果を得ることができた。他のご利用者においても取り組みを進めたい。

		<ul style="list-style-type: none"> ・職員の「気付き」を積極的にケアに反映させ、検討・評価を行い丁寧なケアの実践に繋げる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・毎月の事業所ミーティングの開催 ・業務連絡票の利活用 	<ul style="list-style-type: none"> ・ミーティングにおいては積極的に意見を出し合い、ケアに反映させることができた。参加が一部職員に限られているので、業務調整により多数の職員の参加を促すこととタブレット上での情報交換や個別ミーティングも並行して行う必要がある。 ・1日1枚の業務連絡票を使用することで1日の流れを把握しやすくなると同時に個々の「気づき」を全職員に発信しやすくなった。
2. 多機関・多職種との連携 (評価項目 22～27)	<ul style="list-style-type: none"> ・関係機関や利用者、その環境を把握し情報共有し、丁寧なケアを実践していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・業務表に全ての利用者、関係機関の概要を記載することにより全職員が利用者の環境を把握できるように努めた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・タブレットの基本情報の更新が遅れがちだった。日々の申し送りに関しては関係機関とも迅速に情報共有を図ることができた。 	
3. 誰でも安心して暮らせるまちづくりへの参画 (評価項目 28～32)	<ul style="list-style-type: none"> ・事業所の現況報告を発信していく。 ・長岡市の第8期計画について職員皆が理解できるように進めていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・年2回の推進会議の実施の他に、6月と12月に会報を発行し定期随時ご利用者の現況報告と事業所の取り組みを推進委員の皆様が発信した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度よりは発信の機会を増やすことができた。推進会議を含めて年4回の情報発信では不十分であると感じた。 ・職員全員への第8期計画の周知は達成できなかった。 	

<p>Ⅲ. 結果評価 (評価項目 33～34)</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・在宅生活の継続が出来るよう、職員一人ひとりが利用者やご家族の環境を理解し意見を受容し寄り添うケアを提供出来るように支援する。 ・利用者アンケートを実施しより良いケアの提供に結び付ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・職員が日々の訪問の中でアセスメントを行い、ご利用者やご家族の環境変化に気づけるよう働きかけた。 ・利用者アンケート、居宅ケアマネアンケートを実施した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・一人一人が寄り添うケアを心掛け、訪問時にご利用者や家族の様子がいつもと違ったことなどを感じた際はタブレットに記入して事業所内で共有し援助出来ていた。 ・在宅生活の継続のため、自立支援に向けた寄り添うケアをもっと増やしていきたい。 ・利用者、居宅ケアマネに対してアンケートを実施し悪い評価は無かったが、全てが大変良いになるように取り組んでいきたい。

※「前回の改善計画」および「実施した具体的な取組」は事業所が記入し、「進捗評価」は自己評価・介護・医療連携推進会議における評価の総括を記載します

■ 今回の「評価結果」および「改善計画」

項目	(令和4年度) 評価結果	(令和5年度に向けて) 改善計画
<p>I. 事業運営の評価 (評価項目 1～10)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1.書面での資料にも質問やご意見をいただき、事業所の課題を洗い出すことができた。 2.対面開催においては貴重なご意見を直接お聞きすることができ、連携に欠かせない関係性も築くことができた。 3.職員参加については限られた職員のみとなってしまった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・介護医療連携推進会議の適切な開催を行う。 ・会議資料の作成では多くの職員に参加してもらい学びの場になるようにする。 ・質の高いケアの提供のために理念や業務目標を共有して取り組んでいく。また研修などで職員の知識向上に努めていく

		<ul style="list-style-type: none"> ・理念についての理解は深まったが、実現するための職員の知識向上についての取り組みの実施については未達成である。 ・訓練や研修に参加する職員が一部職員に限られるため、その後の周知に力を入れていく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・感染症のBCPに沿ったシミュレーションを行う。 ・各利用者の災害時の避難行動について検討していく。 ・事業所内のヘルパー研修では、なるべく多くの職員が出席できるよう働きかける。個別研修計画に基づき、事業所内研修だけでなく外部の研修にも積極的な参加を促す。
Ⅱ. サービス提供等の評価	1. 利用者等の特性・変化に応じた専門的なサービス提供 (評価項目 11～21)	<ul style="list-style-type: none"> ・突発的な状態変化に対応する力についてはついてきている。今後はその後の経過も見極め、心身機能の維持回復を見据えた介護計画を実施することを目指す。 ・寝たきりの方についてのアプローチは一定の成果を得ることができた。他のご利用者においても取り組みを進めたい。 ・ミーティングにおいては積極的に意見を出し合い、ケアに反映させることができた。参加が一部職員に限られているので、業務調整により多数の職員の参加を促すこととタブレット上での情報交換や個別ミーティングも並行して行う必要がある。 ・1日1枚の業務連絡票を使用することで1日の流れを把握しやすくなると同時に個々の「気づき」を全職員に発信しやすくなった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・心身機能の維持回復を目標とする介護計画を作成するため、現状とその先を見据えたアセスメントを日頃から全職員が行えるような仕組みを構築する。 ・ミーティングの出席率を上げる。定期のミーティング以外で話し合いの場を設けた場合は、確実に記録に残す。
	2. 多機関・多職種との連携 (評価項目 22)	<ul style="list-style-type: none"> ・タブレットの基本情報の更新が遅れがちだった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・タブレットの基本情報を定期的に更新し常に最新の情報を把握する。

	～27)	日々の申し送りに関しては関係機関とも迅速に情報共有を図ることができた。	・デイサービスやリハビリ等の他職種とも情報交換する機会を設ける。
	3. 誰でも安心して暮らせるまちづくりへの参画 (評価項目 28～32)	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度よりは発信の機会を増やすことができた。推進会議を含めて年4回の情報発信では不十分であると感じた。 ・職員全員への第8期計画の周知は達成できなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・推進会議以外に年4回定期随時の会報を発行する。 ・サポートセンター永田全体で地域に向けた広報誌を発行する。 ・第8期計画の勉強会を開催し全員への周知を図る。
III. 結果評価 (評価項目 33～34)		<ul style="list-style-type: none"> ・一人一人が寄り添うケアを心掛け、訪問時にご利用者や家族の様子がいつもと違ったことなどを感じた際はタブレットに記入して事業所内で共有し援助出来ていた。 ・在宅生活の継続のため、自立支援に向けた寄り添うケアをもっと増やしていきたい。 ・利用者、居宅ケアマネに対してアンケートを実施し悪い評価は無かったが、全てが大変良いになるように取り組んでいきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自立支援に向けたケアを実践するため、利用者の生活歴や普段の生活に着目した適切な訪問介護計画書を職員全員が作成できるように努める。 ・利用者アンケート、居宅アンケートは継続して実施し、利用者が気兼ねなくご意見、ご要望を伝えやすいような風通しのよい関係を築く。

※自己評価・介護・医療連携推進会議における評価の総括を記載します